

◇脱毛の照射禁忌事項について◇

脱毛器の光線は黒い色素に強く反応して黒い色素に吸収される特性を持っており、それを利用したものです。光線が毛中の黒い色素であるメラニンに吸収され、その光線熱により毛が加熱されます。その加熱により毛包隆起部（バルジ）周囲の細胞（幹細胞、《ステム細胞》）が熱損傷を受けることで、その再生を抑制するというものです。毛の成長再生の元となる幹細胞の再生が抑制されれば、毛は成長できなくなり、その結果永久減毛が行えます。その際表皮は、熱損傷を防ぐため冷却されます。以上の過程で脱毛が行われます。脱毛によって毛囊炎（毛包炎）、発赤、色素沈着、色素脱失が生じる事があります。これらの大部分は消失しますが、消失を早める為、当院の指示に従って下さい。

●以下の場合は照射が出来ません。

(1)妊娠中の方。(2)飲酒後にご来院の方。(3)眼窩内（眉下）の脱毛。

●以下の色素性病変がある方は、照射中または照射後の皮膚のトラブルの可能性がありますので、照射出来ない事があります。

(1)膠原病・良性腫瘍（子宮筋腫等）・ペースメーカーが入っている方は主治医に相談下さい。

(2)脱毛部位に美容形成手術によるプロテーゼや歯科手術等でのインプラント、整形手術等でボルトやチタンが入っている方は火傷や破損等、トラブルの原因となりますのでお申し出下さい。

申し出がない場合のトラブルについては責任を負いかねます。

(3)B型・C型肝炎に罹患した既往のある方は、血液検査の照明が必要となります。

（B型肝炎は抗原がマイナス、C型肝炎は抗体がマイナスである確認が必要となります。）

(4)ニキビ治療薬ディフェリンゲル、アキュテインを使用している方は治療部位が強く反応する事があります。また、使用中の方で皮膚に状態が悪い場合（赤み・腫脹・火傷・皮膚の落屑等）は脱毛出来ません。

(5)アスピリン・イブプロフェン・ハーブ類抗凝固剤等を服用していると照射後、紫斑や青あざの発生の危険性が高まります。

(6)日光過敏症を誘発する薬剤を服用している場合は、テスト照射の臨床反応に合わせて、患者のトリートメントパラメーターを調節する必要がありますのでお申し出下さい。

(7)生理直後は易出血傾向があるので、照射後に紫斑や青あざなどの発生の危険性があります。

毛が太くて太い部位（脇、下肢等）は避ける方が望ましいです。

(8)メイク・日焼け止めクリームはすべて除去して下さい。皮膚に光線が入るのを妨げ、毛幹を標的にしたエネルギーを吸収し表皮の加熱を起こすことがある為、火傷する場合があります。

●硬毛化について

(1)硬毛化とはレーザー脱毛によって元の毛より量が増えたり、濃く太い毛が生えてくる事を示します。

全身にリスクはありますが、襟足・背中・上腕などの肩周りが他部位に比べリスクが高くなります。

※一度硬毛化してしまった部位は、治療を続けても改善しない可能性があります。リスクを踏まえた上でご検討下さい。

●照射前

(1)脱毛照射部位は、治療前日までに剃り残しがないように剃毛処理をお願いします。

(2)フェイス脱毛される方はメイクはせずに越しください。化粧・日焼け止めをしている方は落とされた後の照射となります。

(3)患者様自身で希望照射部位をマーキングする際は必ず油性の赤色のペンでお願い致します。

赤色以外でマーキングされますと火傷の原因となります。

●照射時

- (1)予約枠1時間には照射・施術時間以外に入室・退室・お仕度の時間を含みます。
- (2)施術時は脱毛治療用ジェル・軟膏を塗布しますので、付着しても差し支えのない服装、治療後にまれに圧迫や摩擦が原因で炎症が強く出る事がありますのでジーンズやタイトな洋服は避け、ゆったりとした服装でお越しください。

●照射漏れについて

- (1)当院スタッフは時間内で安全に適切なショット数で照射し、照射漏れがないよう予め教育、研修しています。故意に照射漏れを起こすような照射は行っておりません。照射漏れか否かは患者様個々の感覚で異なる場合があります。例えば骨ばっていたり、複雑な形状の部位（肘や膝等）や色素沈着、黒子、アザ、傷痕、日焼け等がある場所では極力照射を避けたり出力を下げる為、脱毛の結果として照射漏れに近い事が起こる場合があります。それは副作用の無いように安全を最優先している為です。以上のような理由で、当院は原則として治療後の照射やり直しは行っておりません。

●その他

- (1)当院スタッフに対する非常識な行為（セクハラ、パワハラ等含む）などがあった場合、即時治療は中止し、今後当院での治療は一切お断りさせて頂きます。その際の返金は応じません。
- (2)施術室は照射を受ける方以外の入室、立ち入りは禁止です。（ご家族、お子様も入室できません）

◇脱毛を受けられる方へ◇

手順

- 脱毛希望部位にジェルを塗布した上で照射しますが、必ずテスト照射を行ってから全体照射に移ります。照射部位によって体位を変える必要がありますのでスタッフの指示に従ってご協力ください。

痛み

- 毛抜きと同等の痛みがあります。一般的には照射中にのみ十分に耐えることの出来る痛みを感じます。痛みが照射後も続く場合はスタッフにお伝え下さい。
- 脱毛後の赤みや炎症が消失または軽減してからも照射部位に痛みが発症する場合があります。徐々に軽減すると思いますが原因不明です。恐らく体内に数多く分布する痛点が刺激を受けたものと考えられますが、これも徐々に軽快すると思います。

副作用

- 脱毛後に赤みやかゆみが続く場合があります。毛穴や周囲の皮膚が強く反応して熱変性を起こすと、毛穴や周辺の皮膚に分布しているメラニンからの発熱によって様々な表皮損傷を起こす可能性があります。これが脱毛後の毛囊炎で程度によって、発赤、水疱の形成、滲出液の排泄、その部位の黒色がかった色素沈着及び瘢痕形成がおこる事があります。通常は徐々に炎症は軽くなりますが、程度や体质等により改善するのに数ヶ月かかる事もあります。脱毛によって生じる毛囊炎、発赤、色素沈着、色素脱失は大多数消失しますが、これらの消失を早くするために医師の指示に従ってください。照射の前に皮膚の状態、毛の状態を十分に観察してから行いますが、アレルギー体质（かぶれ易い、アトピー体质、ケロイド体质等）過去に皮膚に対する診断や自覚症状のある方は申し出て下さい。また、ホクロや刺青等の色素性の皮膚疾患も脱毛器の光に対して反応しますので予め申し出て下さい。色素沈着の強い粘膜及び皮膚部分を照射する場合（口唇周囲、乳

輪、外陰部、アトピー性皮膚炎での色素沈着の強い部分、日焼け部位等）は比較的低い出力で正しく照射しても、脱毛器の熱の吸収が大変強いため、照射部位が過度に反応して火傷や色素脱失がおこりやすいです。

発赤

数日間続くことがあります。発赤が持続している間は、ステロイド含有軟膏を塗り、色素沈着を防止する為、直射日光を避けて下さい。また、湯船への入浴はやめてください。シャワーは積極的に使用し、清潔を保つて下さい。1週間以上発赤が続く場合にはご連絡下さい。

痒み

まれに毛根の急速加熱によってせい弱した毛囊に炎症が起きて痒みが生じことがあります。その場合、過度に搔きむしすると更に悪化して細菌感染を起こしますので、ステロイド含有軟膏を塗布し、冷却して下さい。それでも治まらないようでしたらご連絡下さい。

反応

適切に処理されれば、毛は照射する前に比べて太く膨隆して「黒い点々」として目立ちますが毛の成長は停止します。処理された毛は施術後10日～14日程度で自然に排出されますが、時に1ヶ月以上かかる場合もあります。

日焼け

初期の発赤が消えれば日常生活に支障はありません。厳重な紫外線対策は発赤のある間だけですが、日焼けしてしまうと次回の施術に支障（レーザー火傷の原因）がでる事があります。

発毛

約4週間から毛は伸び始めます。最初はチョロチョロと産毛のように頭を出してきます。6週間位になると剃らないと目立つ毛も出てきますが、細い毛と混在していますので剃りながらお待ち下さい。
※絶対に抜かないで下さい。

体毛は、主に約2～3ヵ月で大体生え揃ってきます。短い間隔での施術は効率が悪いばかりではなく高出力を要しますので火傷のリスクが高くなります。施術間隔が空くことは全く支障ありません。

◇照射方法の注意事項◇

当院で照射を行う場合、照射予定出力を大幅に超えた想定外の出力や最も副作用が発生し易い危険部位の照射を希望される方は、医師の診察が必要となります。診察の結果、施術が可能と判断した場合のみ照射が可能となります。何回施術するかは個人によって異なります。最後の1本までと思う方は10回以上必要な場合もあります。その場合、産毛のように細い毛への高出力に皮膚が堪えられず火傷するようであればそこで諦めて頂くしかありません。必要な安全対策をとっても高出力になれば火傷が起こる事があります。慎重に行っても、火傷してはじめて皮膚が堪え得る限界に達したと判る場合もあります。そのような火傷は防ぎ様のないものですから免責とさせて頂きます。また、皮膚が高出力に耐えられても器械の性能の限界に達してしまえば、それ以上は無理なですから諦めて頂かなくてはなりません。